

“kt.sty” の利用法

南 弘征*

平成 7 年 11 月 15 日現在

要 旨

この原稿は「計算機統計学」原稿作成のための style-file “kt.sty” についての説明文です。この原稿自体も “kt.sty” で書かれていますので、参考にしてください。

1. 概要

“kt.sty” は ASCII 日本語 TeX Ver. 1.6 (TeX Vasion 2.99) 以上での動作を念頭において作成されています。N_TE_X TeX については現在検討中です。基本となっているのは [a4j, 11pt] jarticle ですが、一部コマンドなどに拡張がなされています。以下、相違点や新コマンドについて説明します。

2. preamble

documentstyle は “kt” です。jtwocolumn.sty (A₄T I 日本語 TeX 付属) を自動的に読み込みます。

option は指定できますが、11pt などの書式指定は書いてあっても無視します。a4j は一応読みますが指定は無効になります。ascmac, epsbox などの補助機能ファイルは大丈夫です。

3. タイトル、要旨

- 1 タイトル、著者名は普通に \title{ タイトル } や \author{ 著者 } で書いて下さい。

日付の心配をして \date{} を空で書く必要はありません。書いてあっても無視します。

- 2 題名に関する注や著者所属などは、冒頭の脚注に記述することとなっており、本ファイルでは \thanks{} を用いることができます。著者所属であれば、

```
\author{ 著者その一 \thanks{
  ほかだい } [\and 著者その二
  \thanks{ ばんだい }...]}
```

として、タイトルあるいは著者名を書いた直後に \thanks でくくって書いてください。なお、所属先の電話番号は \Tel. でお願いします。

3. 著者が複数の場合は、\and でつないてください。
4. 著者が複数で所属が直前の人と同じ場合には、\thanks のかわりに \same を使ってください。2 つ以上前の場合は \same[-2] などと相対位置を書いてください。
5. 編集方針により、欧文のタイトルについては、

- 論文および総合報告については、稿末の欧文要旨に
- それ以外では、開始頁の脚注に

記述することとなっております。開始頁脚

* 和文誌編集委員: 小樽商科大学 社会情報学科, 〒 047 小樽市 緑 3-5-21, Tel.0134-23-1101(3x6), E-mail: min@otaru-uc.ac.jp

注に記述いただく場合には、前出の thanks での記述をお願いしますが、稿末の欧文要旨に出力する英文タイトル、著者名などは、`\etitle{Title}`、`\eauthor{Author}\ethanks{Affiliation}` など、それぞれ対応する和文コマンドの頭に 'e' をつけたものを用いて下さい。

6. 著者が複数の場合は `Author\land Author` としますが、最後の著者の前だけは `Author\land Last Author` としてください。`\same` の利用法は和文と同様です。
7. 英文タイトルは自動的に大文字に変換されますので、小文字で打っていただいてもかまいません。
8. 投稿論文のキーワードは `\keyword{キーワード 1, キーワード 2, ...}` として書いて下さい。総合報告などキーワードのない原稿については、`\keyword` を記述しないでください。

4. 和文要旨

`\begin{abstract}` と `\end{abstract}` で囲って書いてください。

5. 欧文要旨について

`\begin{eabstract}` と `\end{eabstract}` でくくってください。指定した欧文のタイトル、キーワードは `eabstract` 環境下にて出力されます。従って、欧文要旨は必ず、参考文献の後に記述していただけますよう、お願い致します。

6. 本文記述に関する留意事項

1. 数字やアルファベットなど、半角で記述可能なものは半角をお願いします。ただし、半角カタカナは絶対に使わないで下さい。

2. 句読点はできるだけ、`、` (半角) と `、` (半角) にしてください。
3. `{や}` あるいは `%や&` といった文字はそのまま打たないようにしてください。ちなみに例示した文字は全て、`\` を頭に置けば OK です。
4. `\section`、`\subsection` などをきちんと使って下さい。`\section*` などで記述される方も少なからずいらっしゃいますが、数式番号との兼ね合いがありますので、ご協力をお願い致します。
5. 数式番号は勝手に (section 番号.section 内での式通し番号) となります。`secti` がかわると式番号は 0 に `res` されます。
6. `Post Scr` を用いた図の挿入などは可能ですが、細かな位置合わせは編集委員会で行ないますので、`vspace` や `hspace`、`newpage` などの利用はできるだけ避けて下さい。また、その際必ず、挿入される `Post Scr` ファイルも併せて送付ください。
7. 参考文献の出版物 (書名、論文掲載誌名など) は強調 (`\em`) で、論文誌などの巻番号は太字 (`\bf`) で記述を統一しています。例えば、`Vol. No. 1, pp. 1-1` と書くよう推奨させて頂いております。

7. 参考文献について

`\begin{thebibliography}{99}` と `\end{thebibliography}` で囲んで下さい。個々の文献は原則として

`\bibitem 文献名`

とし、`\cite` で引用したい場合に限り、

`\bibitem[引用名] 文献名`

としてください。単に引用しても、文献番号は出ずに空のかっこの組が出ます。

なお、本論文誌では、文献番号での引用は原則として行なえないことになっています。

8. おわりに

改造報告、バグ報告、疑問、クレームなどは、和文誌編集委員会あるいは作者までご連絡下さい。

9. 追加

1995年11月15日修正

`\etitles{ 英語タイトル }` というのを作りました。中身はそのまま (一切大文字変換されずに) 出ますので、小文字にしたい文字以外は全て大文字で打って下さい。通常は、`\etitle{ 英語タイトル }` を使って下さい。自動的に全て大文字になります。

HOW TO USE “KT.STY” AND WRITE A MANUSCRIPT

Hiroyuki MINAMI *

(Revised: 1995-0503)

*Associate Editor for Bulletin,

Dept. of Information and Management Science, Otaru University of Commerce, Nishi

3521, Otaru, Hokkaido 047, Japan

This is a guide and sample article for “kt.sty”. Some (or a lot of) remarks and some new commands are offered in this article.

Enjoy it.

Key words: Stylefile, L^AT_EX